

2018年3月期 決算説明資料

2018年5月14日
株式会社加藤製作所



I. 2018年3月期連結決算概要

1. 会社概要	P.2
2. 主要製品	P.3
3. 連結業績サマリー	P.4
4. 連結業績推移	P.5～P.6
5. 連結損益計算書	P.7
6. 営業利益の増減分析	P.8
7. 連結貸借対照表	P.9
8. 連結キャッシュ・フロー計算書	P.10
9. 連結主要品目別売上高推移	P.11
10. 連結仕向地別売上高推移	P.12
11. セグメント別売上高推移	P.13～P.15

II. 2019年3月期連結業績予想

P.16

III. TOPICS

P.17～P.21

- 創 業 : 1895年 (明治28年)
- 設 立 : 1935年 (昭和10年)
- 資 本 金 : 29億3,589万円
- 代 表 者 : 取締役社長 加藤 公康
- 従 業 員 数 : 連結 : 1215名 単体 : 906名 ※2018年3月31日現在
- 事 業 概 要 : 荷役機械、建設機械、産業機械の製造・販売
- 主 な 子 会 社 : 加藤 (中国) 工程机械有限公司
石川島中駿 (厦門) 建機有限公司
KATO WORKS (THAILAND)CO.,LTD.

主要製品

建設用クレーン



トラッククレーン
ラフテレーンクレーン
オールテレーンクレーン
積載形トラッククレーン
クローラクレーン

油圧ショベル等



油圧ショベル
ミニショベル
基礎工事用アースドリル
クローラキャリア
フォワーダ・タワーヤード

その他



路面清掃車
万能吸引車
スノースイーパー
コンクリートポンプ車

連結業績サマリー



- 新規連結効果により、売上高の増加
- 損益については、貸倒引当金を計上し減益

	前期実績 ※ ² (2017年3月期)		当期実績 ※ ² (2018年3月期)	(単位：百万円) 前年同期比 ()内は増減率
売上高	75,438	➔	86,974	11,535 (15.3%)
営業利益	2,556	➔	2,143	△412 (△16.1%)
経常利益	2,479	➔	2,433	△45 (△1.8%)
親会社株主 当期純利益	8,166	➔	3,033	△5,132 (△62.8%)
1株当たり 配当金 (円)	中間 47.50 ※ ¹ 期末 47.50 年間 95.00 ※ ¹	➔	中間 47.50 期末 32.50 ※ ¹ 年間 80.00 ※ ¹	—

※¹ 2016年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。これに伴い、2017年3月期の1株当たり中間・年間配当金は、株式併合後の基準で換算しております。2018年3月期の1株当たり期末・年間配当金は、2018年6月28日開催予定の第119回定時株主総会にて正式に決定される予定です。

※² 株式会社KATO HICOM及び石川島中駿(厦門)建機有限公司の連結は、前期は3ヶ月間(第4四半期会計期間)、当期は通期で連結しております。

なお、当社は2018年3月1日付で当社の連結子会社であった株式会社KATO HICOMを吸収合併いたしました。

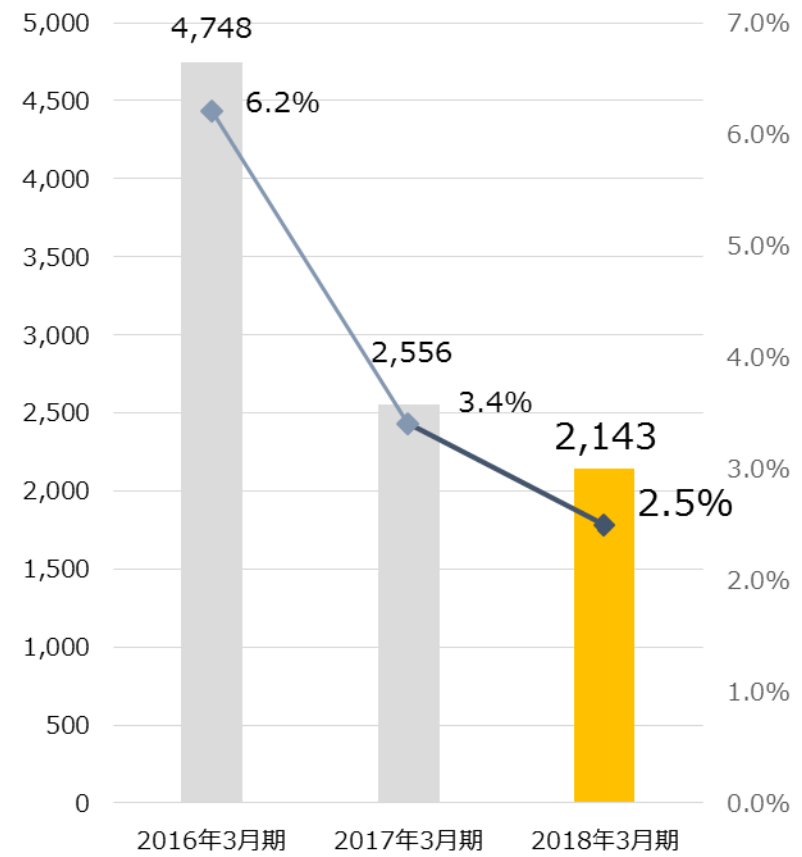
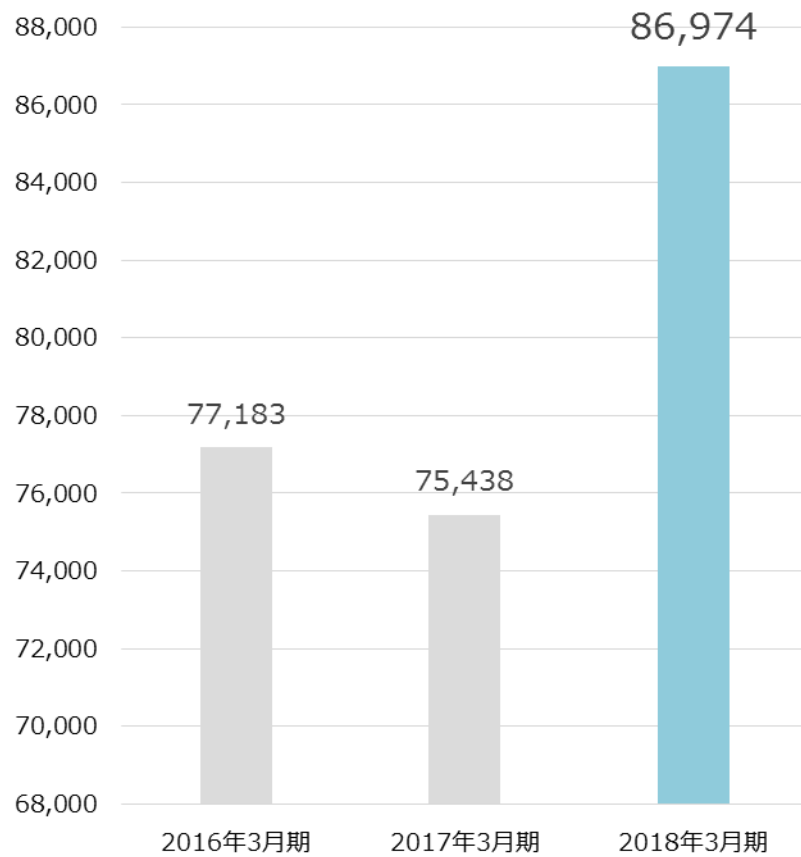
連結業績推移



(単位：百万円)

売上高

営業利益・営業利益率

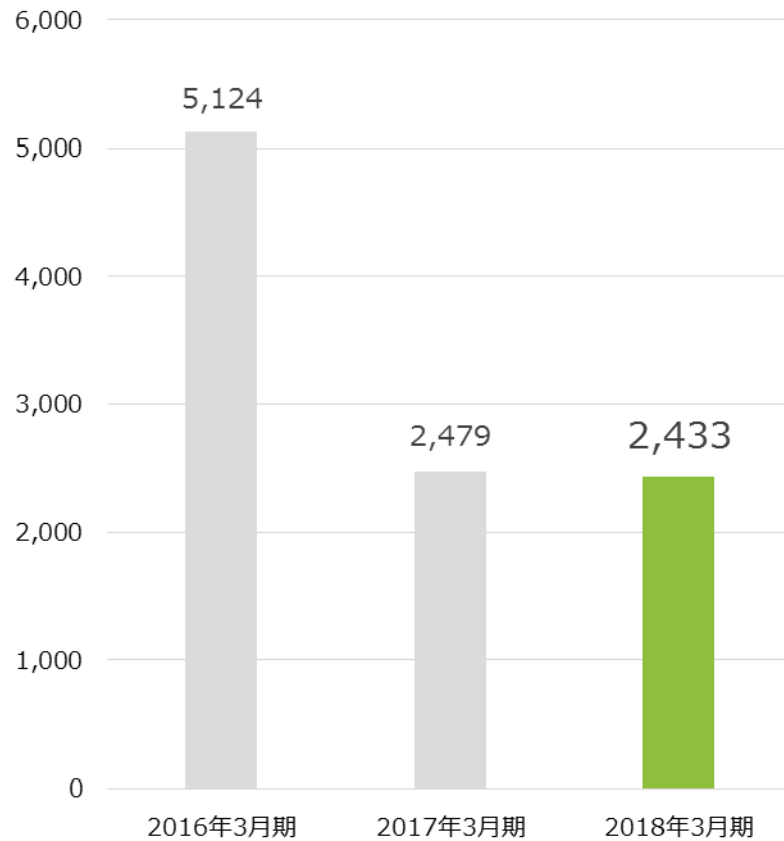


連結業績推移

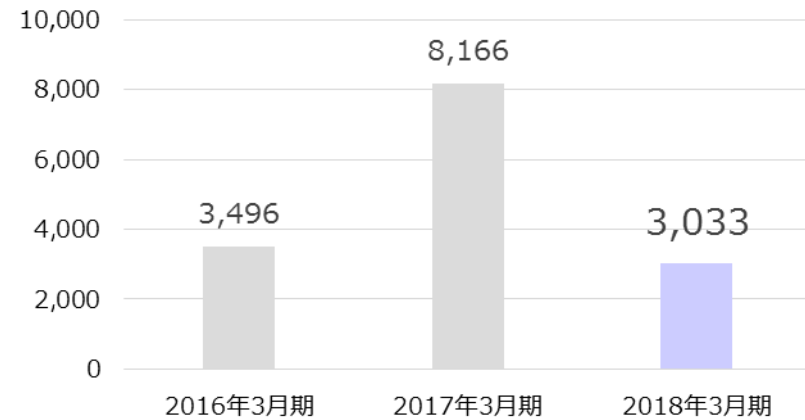


(単位：百万円)

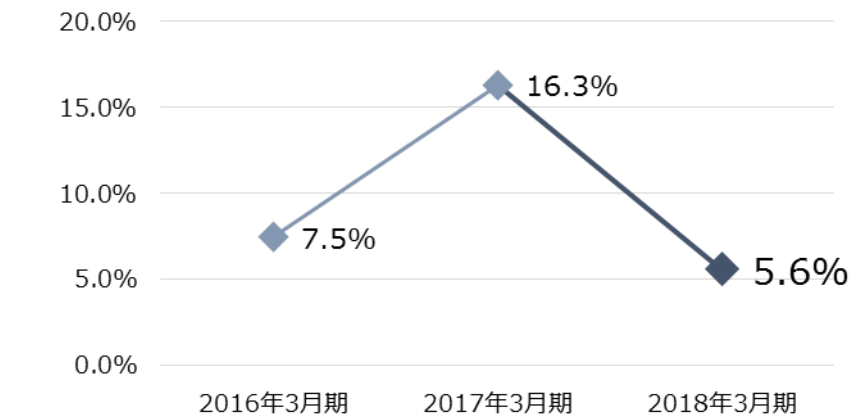
経常利益



親会社株主当期純利益



ROE (自己資本利益率)



連結損益計算書

(単位：百万円)

	2017年3月期		2018年3月期		前年同期比	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
売上高	75,438	100.0%	86,974	100.0%	11,535	15.3%
売上原価	65,202	86.4%	74,076	85.2%	8,874	13.6%
売上総利益	10,235	13.6%	12,897	14.8%	2,661	26.0%
販管費	7,679	10.2%	10,753	12.4%	3,074	40.0%
営業利益	2,556	3.4%	2,143	2.5%	△412	△16.1%
営業外損益	△77	△0.1%	290	0.3%	367	-
経常利益	2,479	3.3%	2,433	2.8%	△45	△1.8%
特別損益	6,646	8.8%	66	0.1%	△6,579	△99.0%
税前利益	9,126	12.1%	2,500	2.9%	△6,625	△72.6%
法人税等	930	1.2%	△647	△0.7%	△1,578	-
非支配株主当期純利益	29	-	114	0.1%	85	291.3%
親会社株主当期純利益	8,166	10.8%	3,033	3.5%	△5,132	△62.8%
ROE		16.3%		5.6%		△10.7ポイント

▶ 売上高

→ 連結売上高は、前年同期比で15.3%増加
→ 海外売上高比率は、14.6%→29.0%

▶ 営業外損益

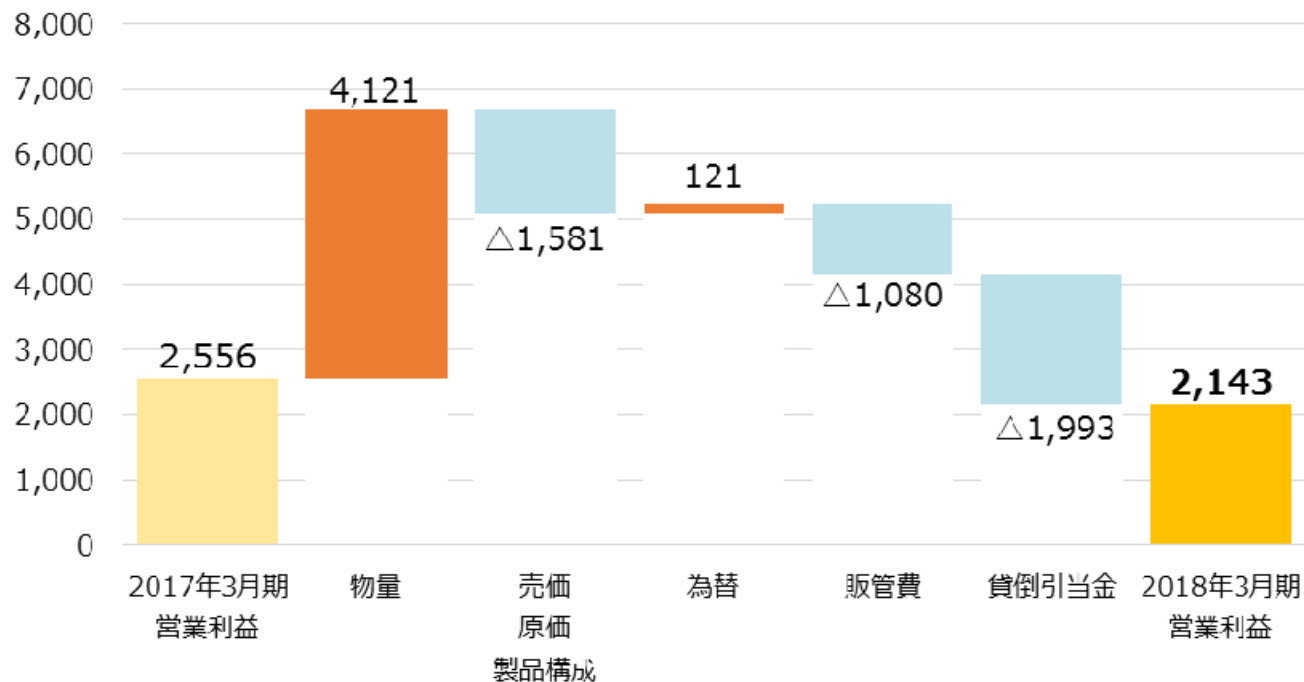
→ 当期の営業外収益は、714百万円
(前年同期695百万円)
→ 営業外費用は、423百万円
(前年同期772百万円)

▶ 経常利益及び親会社株主当期純利益

→ 経常利益は、前年同期比45百万円減少
→ 親会社株主当期純利益は、
前年同期比5,132百万円減少

営業利益の増減分析

(単位：百万円)



▶ 営業利益増減要因

- ・物量の増加により 4,121百万円
- ・売価/原価/製品構成の変動により △1,581百万円
- ・為替の変動により 121百万円
- ・販管費の増加により △1,080百万円
- ・貸倒引当金の増加により △1,993百万円

▶ △412百万円

連結貸借対照表



(単位：百万円)

項目		2017年3月期		2018年3月期		前期末比	
		金額	比率	金額	比率	増減額	
資産の部	流動資産	手許資金	16,744	13.2%	18,410	15.3%	1,665
		売上債権	55,681	43.8%	46,874	39.0%	△8,807
		たな卸資産	37,479	29.5%	34,441	28.6%	△3,038
		その他	△549	△0.4%	△44	0.0%	505
		流動資産計	109,355	86.1%	99,681	82.9%	△9,674
	固定資産	有形固定資産	14,013	11.0%	15,743	13.1%	1,730
		無形固定資産	366	0.3%	599	0.5%	232
		投資その他の資産	3,316	2.6%	4,229	3.5%	912
		固定資産計	17,696	13.9%	20,572	17.1%	2,875
	資産合計		127,052	100.0%	120,253	100.0%	△6,798
負債・純資産の部	負債	仕入債務	25,588	20.1%	23,922	19.9%	△1,665
		有利子負債	41,373	32.6%	33,212	27.6%	△8,160
		その他	5,968	4.7%	6,108	5.1%	140
		負債計	72,930	57.4%	63,244	52.6%	△9,686
	純資産	利益剰余金	41,462	32.6%	43,382	36.1%	1,920
		評価換算差額等	1,793	1.4%	2,630	2.2%	837
		その他	10,867	8.6%	10,995	9.1%	128
		純資産計	54,122	42.6%	57,009	47.4%	2,887
	負債・純資産計		127,052	100.0%	120,253	100.0%	△6,798

▶ **売上債権の減少**
 55,681百万円→46,874百万円
 → 売上債権回転期間は改善
 (2017年3月期：269.4日
 2018年3月期：196.7日)

▶ **たな卸資産の減少**
 37,479百万円→34,441百万円
 → たな卸資産回転期間は改善
 (2017年3月期：181.3日
 2018年3月期：144.5日)

▶ **有利子負債の減少**
 41,373百万円→33,212百万円

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

		2017年3月期	2018年3月期
		金額	金額
営業キャッシュフロー	税前利益	9,126	2,500
	減価償却費	1,353	1,580
	売上債権増減額	2,227	9,377
	たな卸増減額	2,176	3,108
	仕入債務増減額	△1,906	△1,743
	その他	△9,639	△1,334
	営業キャッシュフロー計	3,338	13,488
投資キャッシュフロー	固定資産取得	△4,113	△2,672
	貸付金又は貸付金による支出	△8,539	-
	その他	2,759	△271
	投資キャッシュフロー計	△9,893	△2,943
財務キャッシュフロー	有利子負債増減額	11,042	△8,185
	その他	△1,188	△1,119
	財務キャッシュフロー計	9,854	△9,304
増減額	換算差額	△237	68
	増減額計	3,062	1,310
現金及び現金同等物の期首残高		13,682	16,744
現金及び現金同等物の期末残高		16,744	18,055
有利子負債残高		41,373	33,212

➤ 営業キャッシュフローの大幅な増加
→ 運転資本の大幅な改善により増加

➤ 固定資産の取得
→ 坂東市の土地取得及び群馬工場の増設

➤ 有利子負債の減少
→ 営業キャッシュフローで得た資金で有利子負債を削減

連結主要品目別売上高推移

(単位：百万円)

	2017年3月期		2018年3月期		前年同期比		2018年3月期 (新規連結会社を除く)	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	金額	増減率※
建設用クレーン								
国内売上高	49,524	65.7%	45,418	52.2%	△4,106	△8.3%	41,576	△7.6%
海外売上高	6,567	8.7%	7,068	8.1%	501	7.6%	5,520	△2.9%
計	56,092	74.4%	52,487	60.3%	△3,605	△6.4%	47,097	△7.1%
油圧ショベル等								
国内売上高	13,491	17.9%	14,689	16.9%	1,197	8.9%	11,752	△7.8%
海外売上高	4,442	5.9%	18,132	20.8%	13,689	308.1%	10,140	247.7%
計	17,933	23.8%	32,821	37.7%	14,887	83.0%	21,893	39.8%
その他								
国内売上高	1,393	1.8%	1,642	1.9%	249	17.9%	1,293	△2.6%
海外売上高	18	0.0%	23	0.1%	4	25.3%	22	28.2%
計	1,411	1.8%	1,665	2.0%	253	18.0%	1,315	△2.2%
合計								
国内売上高合計	64,409	85.4%	61,749	71.0%	△2,659	△4.1%	54,622	△7.5%
海外売上高合計	11,028	14.6%	25,224	29.0%	14,195	128.7%	15,683	81.9%
計	75,438	100.0%	86,974	100.0%	11,535	15.3%	70,305	3.9%

国内売上高の減少

→ 震災復興需要の減少により国内クレーンの売上高が減少

油圧ショベル等の大幅な増加

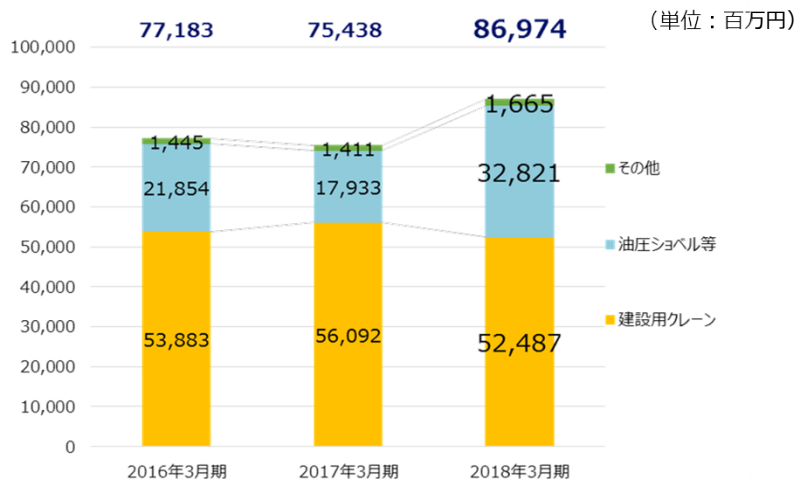
→ 新規連結会社並びに加藤(中国)及び国内ショベルの売上高が増加

海外売上高の大幅な増加

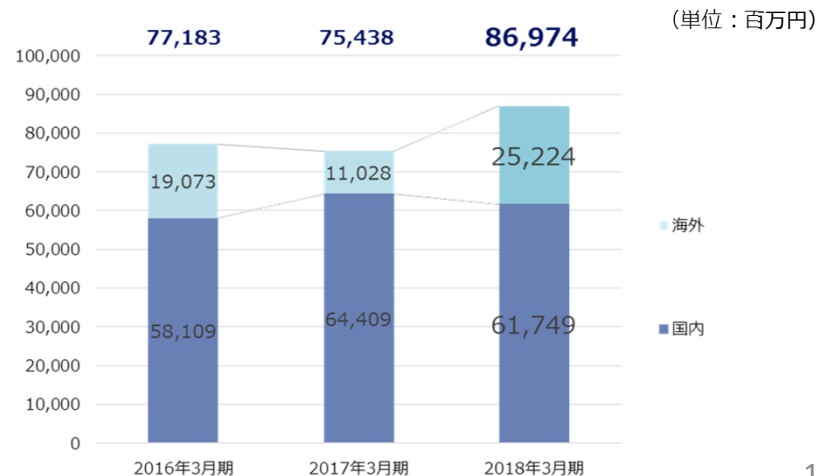
→ 新規連結効果により、海外売上高が141億円増加

※増減率は、前期の連結効果も除いております。

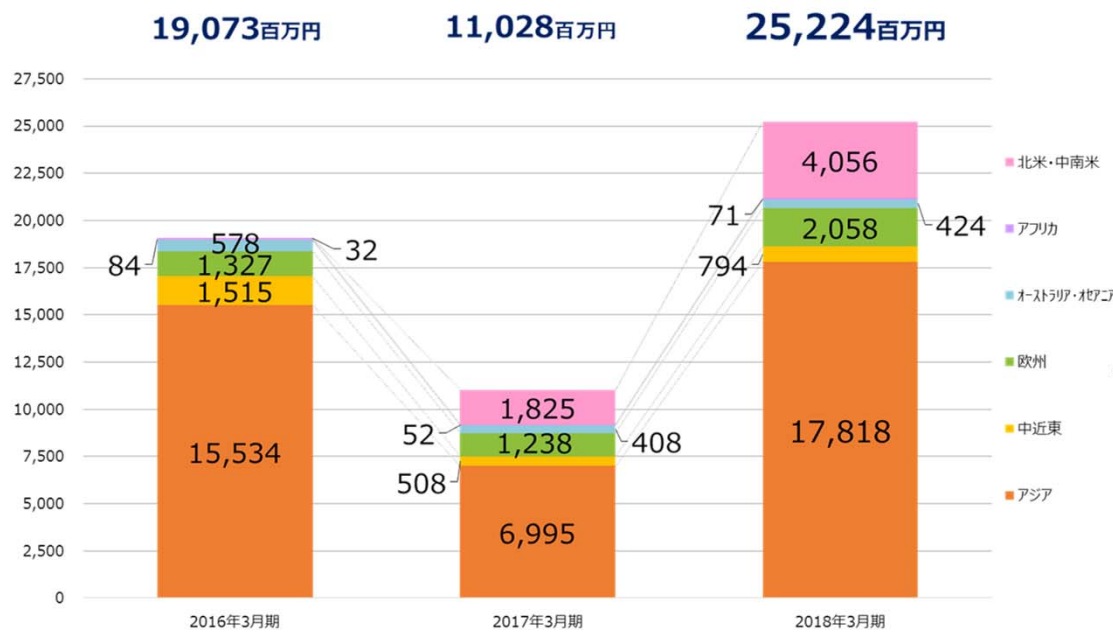
主要品目別売上高推移



国内外売上高推移



連結仕向地別売上高推移（日本除く）



▶ **北米・中南米・欧州の大幅増**
 → 前年度より新規連結会社が加わったことにより、北米・中南米・欧州も重要な販売地域として追加された

(単位：百万円)

	2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期		前年同期比		総売上高構成比
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
アジア	15,534	81.4%	6,995	63.4%	17,818	70.6%	10,823	154.7%	20.5%
中近東	1,515	7.9%	508	4.6%	794	3.2%	286	56.3%	0.9%
欧州	1,327	7.0%	1,238	11.2%	2,058	8.2%	819	66.2%	2.4%
オーストラリア・オセアニア	578	3.0%	408	3.7%	424	1.7%	15	3.9%	0.5%
アフリカ	84	0.4%	52	0.5%	71	0.3%	19	37.3%	0.1%
北米・中南米	32	0.2%	1,825	16.6%	4,056	16.1%	2,230	122.1%	4.7%
海外売上高合計	19,073	100.0%	11,028	100.0%	25,224	100.0%	14,195	128.7%	29.0%

セグメント別売上高推移（建設用クレーン）



【主要製品紹介】

ラフテレーンクレーン

- 1つの運転室で走行とクレーン操作が可能
- 不整地走破性と小回り性に優れたクレーン
- 国内向け（4.9t～80t 6機種）
- 国外向け（13t～70t 8機種）



オールテレーンクレーン

- 走行用とクレーン操作でそれぞれ独立した運転室を持つ
- 高速走行性と不整地走破性を兼ね備えたクレーン
- 国内向け（130t～400t 4機種）
- 国外向け（130t 1機種）



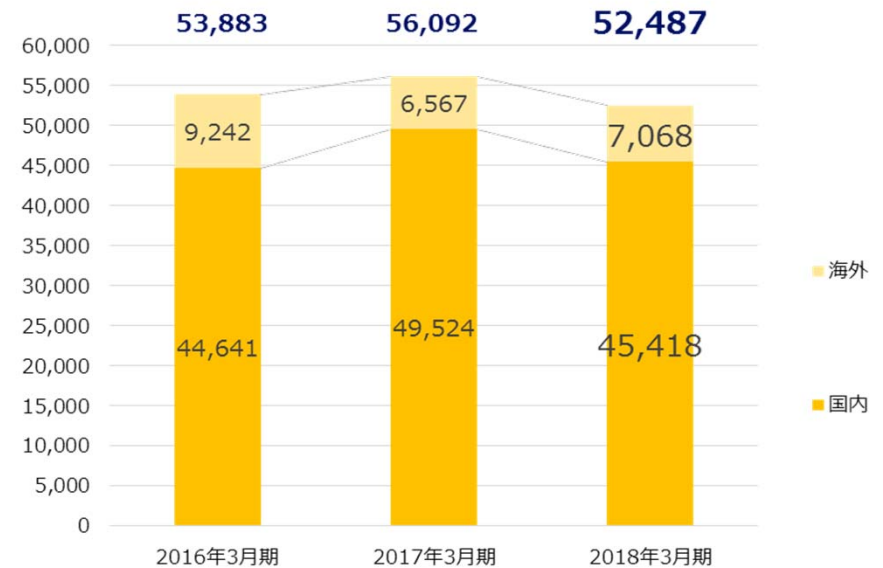
クローラクレーン

- 1つの運転室で走行とクレーン操作が可能
- ラチスブームの組み合わせにより多様な現場に対応可能
- 国内向け（50t～200t 6機種）
- 国外向け（55t～300t 7機種）



（単位：百万円）

売上高推移



➤ 国内

→ 東日本大震災の復旧・復興事業の縮小、排出ガス規制による駆け込み需要の反動減及び中古市場の低迷により売上高は、4,106百万円の減少

➤ 海外

→ アジア向けは減少したものの、アメリカ向けや中近東向けが増加したことにより、売上高は501百万円の増加

セグメント別売上高推移（油圧ショベル等）

【主要製品紹介】

油圧ショベル

- クローラ式走行部を有する掘削機械
- 不特定の場所を自走できる
- 頑丈で操作性が良い
- 国内向け（8t～45t 8機種）
- 国外向け（8t～45t 14機種）



ミニショベル

- 小型の油圧ショベル
- 小回りが効くため、多様な現場で活用可能
- 国内向け（0.9t～8t 15機種）
- 国外向け（0.9t～8t 12機種）



クローラキャリア

- 不特定の場所を自走できる運搬機械
- 作業効率が良く多彩な現場で活用可能
- 国内向け（5.5t～12t 5機種）
- 国外向け（3.5t～12t 5機種）



（単位：百万円）

売上高推移



▶ 国内

→ ミニショベル、林業機械等を加えたことにより、売上高は1,197百万円の増加

▶ 海外

→ 中国のインフラ工事の増加により需要が大幅に増加し、またアメリカ向けの需要も増加したことで、売上高は13,689百万円の増加

セグメント別売上高推移（その他）

【主要製品紹介】

路面清掃車

- 高い清掃能力とコンパクト化を両立
- 人に優しい低騒音・高効率スイーパ
- 国内向け（3機種）
- 国外向け（個別対応）



万能吸引車

- 汚泥から粉粒体まで、多様な吸引車
- 小型から大型まで多機種を取り揃えた多彩なラインナップ
- 国内向け（7機種）
- 国外向け（個別対応）



スノースイーパー

- 強力なブラシ＆ブロー式を採用
- スピーディで効率の良い除雪作業を実現
- 国内向け（5機種）
- 国外向け（個別対応）



（単位：百万円）

売上高推移



➤ 売上高の増加

→ 新規連結会社を追加したことにより、売上高は253百万円の増加

2019年3月期連結業績予想

見通しポイント

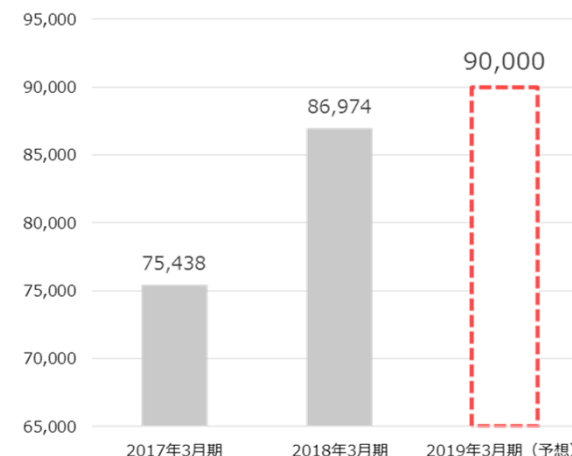
- 国内は、クレーン・ショベル共に前年並みの需要を見込む
- 海外は、中国でのショベル販売の需要の増加に加え、アジア向けクレーン及び北米向けクローラリアの需要の増加も見込む

	2018年3月期		2019年3月期 (予想)	
	金額	比率	金額	増減率
売上高	86,974	100.0%	90,000	3.5%
国内売上高	61,749	71.0%	61,000	△1.2%
海外売上高	25,224	29.0%	29,000	15.0%
営業利益	2,143	2.5%	4,500	109.9%
経常利益	2,433	2.8%	4,500	84.9%
親会社株主当期純利益	3,033	3.5%	2,800	△7.7%
1株当たり 配当金	中間	47.50円	47.50円	
	期末	※ 32.50円	47.50円	
	年間	※ 80.00円	95.00円	
設備投資額		2,672		5,500

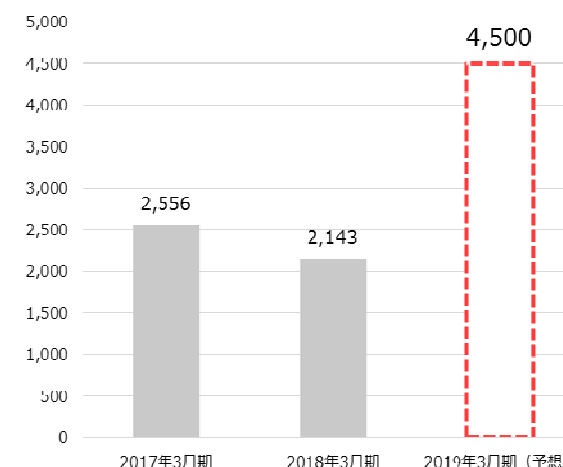
※2018年3月期の1株当たりの期末・年間配当金は、2018年6月28日開催予定の第119回定時株主総会にて正式に決定される予定です。

(単位：百万円)

売上高



営業利益



➤ 株式会社KATO HICOMを吸収合併 (2018年3月1日)

合併目的

経営資源の集約、業務の効率化及び意思決定を迅速化し、収益性を向上させる

企業価値の更なる向上の実現



- 今後のスケジュール予定 → 2019年11月までに株式会社KATO HICOM横浜工場の生産機能を群馬工場へ移管

▶ 新型220tオールテレーンクレーンKA-2200R 新発売

～2018年4月より～

- ✓ 伸縮操作が容易なフルパワー式最長55m高剛性スーパーブームを採用
(ブーム長さ14.4m～55.0m、最起立角度85°、最大吊上げ荷重220t)
- ✓ 自力着脱装置つき、懐の深い作業が可能な最長30mのスーパーラフィングジブを装備
- ✓ 立組み可能な構造で、狭い現場でも能力を発揮する最大吊上げ荷重84tのヘビーリフトジブを装備
- ✓ バヨネット方式旋回輪や新型フートピン機構を採用し、クレーン装置の簡単迅速な着脱を実現



- ✓ 現場の状況によりウエイト構成を容易に変更できる新型カウンターウエイト
- ✓ KATO独自開発のワイドキャブ装備クレーン専用6軸キャリア
- ✓ アウトリガ操作用ラジコンを標準装備、分解・組立専用ラジコンをオプション装備

➤ 後方小旋回型23tクラスHD823MR-7 新発売 ～2018年2月より～

- ✓ 特定特殊自動車排出ガス2014年基準適合の新世代のクリーンエンジンを搭載し環境負荷の低減
- ✓ 2020年燃費基準を100%達成して、低燃費を実現
- ✓ 操作フィーリングの向上とフロントの作業速度アップによる作業性能の向上
- ✓ メンテナンスしやすい機器配置による整備性の向上
- ✓ 新開発ROPSキャブ採用や新型オートエアコン採用により快適・安全性能の向上
- ✓ 新型APC採用と車両情報システム搭載による使い易さとサポート性能の向上

油圧ショベルREGZAM
新シリーズ



➤ 林業用フォワーダ IC55LG 新発売

～2018年4月より～

- ✓ 特定特殊自動車排出ガス2014年基準適合の新世代のクリーンエンジンを搭載し環境負荷の低減
- ✓ サスペンション付きシート採用や操作スイッチ付ジョイスティック採用により、作業性の向上
- ✓ メンテナンスしやすい機器配置による整備性の向上
- ✓ ROPSキャブ採用や操作空間の大型化により快適・安全性能の向上

新型フォワーダ



➤茨城県坂東市に建機部品の新工場を建設

株式会社KATO HICOMの子会社化及び吸収合併に伴い、
生産規模拡大のために、坂東市に土地を取得

(2017年12月)

✓ 物件概要

所在地：茨城県坂東市坂東インター工業団地
面積：約66,000㎡

※完成予想図

✓ 今後の建設スケジュール 等

着工：2018年2月
完成予定：2018年12月
総投資額：約30億円



Progress To The Next Stage

- 次なるステージに絶え間なく進化するため
- あらゆる革新的な取り組みを実行し
- 企業価値の向上を目指し
- 世界的企業として豊かな社会づくりに貢献します

本資料に記載されている現在の計画や今後の見通しに関する内容につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて、計画・予想したものであります。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。そのため、本資料におきましては、その実現を確約あるいは保証するものではありません。

お問合せ先

株式会社加藤製作所
総務人事部 IR担当

〒140-0011 東京都品川区東大井1-9-37
E-Mail:ir-kato@kato-works.co.jp